

ドイットルファン隊収集の 初期無量寿經写本

三 谷 真 澄

はじめに

ドイットルファン隊収集の文献資料についてはすでに概要を示した⁽¹⁾。本稿では、漢文仏典写本⁽²⁾について目録作業を進める過程で明らかとなった最古級の浄土教写本を録文紹介する。これらは、藤枝晃氏が発案し西域文化研究会が依用している書写年代分期法で AA 期⁽³⁾に属するものである。筆跡の点から 4—5 世紀の隸書風の書体であり、紙質、界高など、総合的に判断して、北朝前期（3 世紀末—5 世紀前半）に書写されたことは疑いない。

一方、これらの写本は、大正新脩大藏經（大正藏）所載の〈無量寿經〉⁽⁴⁾類の諸テキストと相違し、初期〈無量寿經〉⁽⁵⁾の形態を示すものの、用語や字句において現行の『佛說阿弥陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經（大阿弥陀經）』や、『佛說無量清淨平等覺經（平等覺經）』と一致していない。すなわち、〈無量寿經〉類の經典であることは間違いないが、いずれのテキストとも合致しないため、未同定とせざるを得ないのである。

〈無量寿經〉は古来「五存七欠」と言われ、現存する漢訳 5 本の中で康僧鎧訳と伝えられる『佛說無量壽經（無量寿經）』が、伝統的に浄土系諸宗で読誦されてきたが、その最古層のテキストを留めるトルファン出土写本の一部を紹介したいと考える。

ドイツトルファン隊収集の初期無量寿経写本

断片番号	旧番号	仏典名	大正蔵同定箇所	縦(cm)	横(cm)
1 Ch 0419r	T II T 1469	not identified(初期<無量寿経>)		9.7	12.0
2 Ch 1111br	T II D 357	not identified(初期<無量寿経>)		14.9	13.3
3 Ch 0873v	T II T 1819	not identified(初期<無量寿経>)		11.9	6.2
4 Ch 1117v	T II T 1896	not identified(初期<無量寿経>)		10.5	7.2
5 Ch 0953v	T II T 1980	not identified(初期<無量寿経>)		12.9	10.5
6 Ch 1161v	T II T 1957	not identified(初期<無量寿経>)		10.9	7.0
7 Ch 3271er	T II T 2017	not identified(初期<無量寿経>)		10.6	4.4
8 Ch 3271cr	T II T 2017	not identified(初期<無量寿経>)		1.9	3.6
9 Ch 0030	T II 1791	not identified(初期<無量寿経>)	(T12_0362_0309b-c)	8.2	13.2
10 Ch 1556r	T III 78.2	not identified(初期<無量寿経>)		7.6	10.0
11 Ch 0602r	T II T 1256	大寶積經卷第十七 無量壽如來會第五之一	T11_0310_0094b15-20	3.3	10.7
12 Ch 5556	T II T 1022	佛說無量壽經	T12_0360_0270c15- 0271a21	17.8	62.0
13 Ch 0251	T III 78.3	佛說無量清淨平等覺經卷第四	T12_0361_0295c10-16	16.4	9.3
14 Ch/U 6989	Ohne Sigel	佛說觀無量壽佛經	T12_0365_0342a19-29	13.0	16.0
15 Ch/U 8070	T II D 142.20	佛說觀無量壽佛經	T12_0365_0342b21-c07	14.6	32.7
16 Ch 1328r	T II 1167	佛說觀無量壽佛經	T12_0365_0343c01-10	26.3	7.9
17 Ch/U 6430	T IIS 2 B 500	佛說觀無量壽佛經	T12_0365_0345c12-17	13.7	8.9
18 Ch 0033r	T II T 1595	佛說阿彌陀經	T12_0366_0346b22-c02	5.3	5.0
19 Ch/U 6902a	Ohne Sigel	佛說阿彌陀經	T12_0366_0346c02-04?	7.4	3.5
20 Ch 0033v	T II T 1595	佛說阿彌陀經	T12_0366_0346c08-14	5.3	5.0
21 Ch 1448	T III 34.73	佛說阿彌陀經	T12_0366_0346c08-15	16.5	12.0
22 Ch 2832a	T II D 217	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a06-09	12.4	6.5
23 Ch 0850	T II 3074	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a06-10	11.1	8.5
24 Ch 3408r	T II T 1733	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a07-10	8.9	6.2
25 Ch 0371	T II D 390	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a08-12	10.7	9.6
26 Ch 1487	T I 1017	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a10-15	14.8	9.5
27 Ch 2266	ohne Sigel	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a12-18	7.4	9.6
28 Ch 2737	ohne Sigel	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a16-21	9.8	12.0
29 Ch 0522	T I 502 x	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a16-23	12.2	13.0
30 Ch 0998	T II 2029	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a19-27	11.2	13.2
31 Ch 0928	T II 4093	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a22-25	12.4	8.0
32 Ch 1333	T II T 1085	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347a27-b03	10.9	10.0
33 Ch/So 20102	T I 1009	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347b01-07	9.1	11.1
34 Ch 0505	T III 1175	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347b10-15	13.1	8.3
35 Ch 3326r	T III M 019	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347b10-15	8.1	10.7
36 Ch 0644	T II T 1468	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347c02-10	11.0	14.5
37 Ch 0992	T II 1643	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347c13- 0348a14	16.7	31.6
38 Ch 1178	T III M 509	佛說阿彌陀經	T12_0366_0347c15- 0348a02	12.5	7.2
39 Ch/U 6549	T II T 1152	佛說阿彌陀經	T12_0366_0348a14-24	17.5	15.7
40 Ch 1564	T III T 130	佛說阿彌陀經	T12_0366_0348a24-28	13.4	9.0

ドイツトルファン隊収集の初期無量寿経写本

書写年代	紙色	罫線・界線・紙縫	目録No.	頁/No.	備考
AA	白っぽい	罫線有り、上界線有り			
AA	白	罫線有り、上界線有り			2点有り、右の断片
AA	白っぽい	罫線有り			裏打紙として貼付
AA	白っぽい	罫線有り			裏打紙として貼付
AA	白	罫線有り、下界線有り			
AA	白	罫線有り、上界線有り、紙縫有り			
AA	白っぽい	罫線有り、紙縫の痕跡有り			5点有り、最も右側の断片
AA	白っぽい	罫線有り、上界線有り			5点有り、右上の小断片
AA	薄茶	罫線無し	3	0574	既刊目録では、 T12 0362 0309b-c に同定。 裏面に文字無し
AA	白っぽい	罫線有り、下界線有り			佛説無量壽經卷下 T12 0360 0276a11-17に相当
C2	紺地に金泥	罫線不明			裏面に「T II Toyoq」と鉛筆書き有り
C1	薄茶	罫線有り、上界線有り、紙縫有り	1	131	[藤田宏達2007: 対照表35] 裏面に文字無し
AA	白っぽい	罫線有り	3	0573	裏面に文字無し
C2	白っぽい	罫線有り、下界線有り	2	63	[藤田宏達2007: 対照表74] 05行目の余白に非漢字有り
C2	薄茶	罫線有り、上界線有り、紙縫有り			MIK 031742
C3	白っぽい	罫線有り(朱)、上下界線有り(朱)	1	131	[藤田宏達2007: 対照表74]
C3	薄茶	罫線有り、下界線有り			
C2	茶色	罫線無し	1	132	[藤田宏達2007: 対照表118]
P	薄茶	罫線無し	2	63	[藤田宏達2007: 対照表118] 2点有り、右の断片
C2	茶色	罫線無し	1	132	
C3	薄茶	罫線有り、下界線有り	1	132	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	132	[藤田宏達2007: 対照表118] 2点有り、右の断片。 裏面に文字無し
C3	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	132	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C3	薄茶	罫線有り、下界線有り			
C2	薄茶	罫線有り	1	132	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C3	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	132	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	薄茶	罫線有り、下界線有り	2	63	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C3	薄茶	罫線有り、下界線有り	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C3	薄茶	罫線有り、下界線有り	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
D	薄茶	罫線有り、紙縫有り	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	薄茶	罫線有り、上界線有り			[藤田宏達2007: 対照表118]
C2	茶色	罫線有り(朱)、上界線有り(朱)	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	茶色	罫線不明	1	133	[藤田宏達2007: 対照表118]
C3	薄茶	罫線無し	1	134	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C2	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	134	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C3	薄茶	罫線有り、上界線有り	1	134	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し
C3	茶色	罫線有り、上界線有り	1	134	[藤田宏達2007: 対照表118]
C2	茶色	罫線有り、下界線有り	1	134	[藤田宏達2007: 対照表118] 裏面に文字無し

ベルリン国立図書館所蔵浄土教写本リスト

最古級の初期〈無量寿経〉写本を紹介するに先立って、先ず、ドイツ隊が収集した漢文浄土教資料のうち、浄土三部経（〈無量寿経〉・『観無量寿経』・『阿弥陀経』）の断片に限定して、既刊目録に掲載されたものに加え、新たに同定されたものや未同定のもの、計40点を紹介しておきたい。

凡例

- ・大正蔵同定箇所との順とする。未同定分は比較的蓋然性の高い經典の構成順に従う。
- ・断片番号、書写年代については、後註(2)および(3)を参照。
- ・大正蔵同定箇所との記号の意味するところは以下の通り。
T11_0310_0094b15-20：大正蔵 Vol. 11, No. 310, p. 94 中段15～20行目
(6)
・既刊目録の巻数、頁あるいは掲載番号を示した。一部既刊目録の同定の誤りを修正した箇所がある。
- ・備考欄に藤田宏達『浄土三部経の研究』（岩波書店、2007）巻末の「附章 浄土三部経の諸本対照表」に挙げられている断片の掲載頁を記す。

ベルリン所蔵の初期〈無量寿経〉写本

上表のうち、初期〈無量寿経〉写本については、冒頭の10点が未同定であり、1点が同定可能なものである。以下、〈無量寿経〉の構成に従いつつ、釈文を記載する。

釈文凡例

- ・行番号を冒頭に示した。
- ・断片番号の意味するところは以下の通り。

Ch ……新番号：漢文の資料 ドイツ国立図書館 (Staatsbibliothek zu Berlin) Haus 2 (Potsdamer strasse) 所蔵

通し番号の後の a,b,c... は、資料中に複数断片が夾入されている場合の番号（原則として表面左上から a,b,c,...）

r: recto（表面）、v: verso（裏面）

T II T……旧番号：ドイツトルファン探検隊（T）、第2次隊（II）、出土地（トヨク）

T II D……ドイツトルファン探検隊（T）、第2次隊（II）、出土地（ダキアヌスシャフリ）

T III……ドイツトルファン探検隊（T）、第3次隊（III）
(Toyuk)……出土地トヨク⁽⁷⁾

- ・[]：未判読文字（大正蔵でも復元できない場合）
- ・[]：欠損文字を示す。筆画が残存している部分で大正蔵より類推可能な文字については、判読の可否を問わず、半角括弧で示す。
- ・[]：写本に欠如した部分を示す。大正蔵から補える箇所については文字を入れる。但し、第一行目行頭部分と最終行の行末に文字が残っていない部分がある場合は、文字数の確定が困難なため、先端または末尾の括弧は閉じない。
- ・校異

『大阿』：『佛説阿弥陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經』大正12, No. 362

『平等』：『佛説無量清淨平等覺經』大正12, No. 361

『無量』：『佛説無量壽經』大正12, No. 360

『如来会』：『大寶積經』第五會，卷第十七・十八「無量壽如來會」大正11, No. 310

Ch 0419r T II T 1469 9.7×12.0 AA 野線有り，上界線有り

- 01 念欲 [往生] [] [
- 02 菩薩共飛行 [
- 03 薩欲到他方生 [] [
- 04 令我國中諸菩 [

- 05 一色比如第六天〔
- 06 薩阿羅漢〔
- 07 願令我國〔
- 08 〔瞋怒愚痴〕〔

この断片は、現行のいずれの〈無量寿経〉にも同定できない。強いて挙げれば、『大阿弥陀経』の第七願、第九願、第十一願が相当するようであるが、完全に合致するわけではない。⁽⁸⁾

第七願。使某作佛時。令八方上下。無央數佛國。諸天人民。若善男子善女人。有作菩薩道。奉行六波羅蜜經。若作沙門不毀經戒。斷愛欲齋戒清淨。一心念欲生我國。晝夜不斷絕。若其人壽欲終時。我即與諸菩薩阿羅漢。共飛行迎之。即來生我國。則作阿惟越致菩薩。智慧勇猛。得是願乃作佛。不得是願終不作佛。(「作菩薩道願生(臨終來迎)」⁽⁹⁾) T12_0362_0301b27-c05)

第九願。使某作佛時。令我國中。諸菩薩阿羅漢。面目皆端正。淨潔姝好。悉同一色。都一種類。皆如第六天人。得是願乃作佛。不得是願終不作佛。(「面目姝好・悉同一色」 T12_0362_0301c10-13)

第十一願。使某作佛時。令我國中。諸菩薩阿羅漢。皆無有淫泆之心。終無念婦女意。終無有瞋怒愚癡者。得是願乃作佛。不得是願終不作佛。(「無淫瞋癡」 T12_0362_0301c17-20)

Ch 1111br T II D 357 14.9×13.3 AA 雲線有り，上界線有り

- 01 〔説〕〔如 or 汝〕〔我終不〕〔取阿耨多羅三藐三菩提（七）世尊
- 02 若我未來成〔佛〕〔
- 03 心智知百千万〔
- 04 我終不取阿〔耨〕〔多羅三藐三菩提（八）世尊若我未
- 05 來成佛道〔已生〕〔

この断片は、『無量寿経』四十八願文の第七願から第八願に相当する。

第七願（天耳智通（天耳通））

設我得佛。國中入天。不得天耳。下至聞百千億那由他諸佛所説。不悉受持者。不取正覺。（T12_0360_0267c29-0268a02）

第八願（他心智通（他心通））

設我得佛。國中入天。不得見他心智。下至知百千億那由他諸佛國中衆生心念者。不取正覺。（T12_0360_0268a03-05）

Ch 0873v T II T 1819 11.9×6.2 AA 罽線有り

- 01] [飾佛] [
- 02] 若我未來成 [佛] [
- 03] 少者若不得 [
- 04] 像我終不取 [

この断片は、願文のどの箇所にあたるか不明である。第三十願から三十一願あたりに相当するものか。

第三十願（智弁無窮）

設我得佛。國中菩薩。智慧辯才若可限量者。不取正覺。（T12_0360_0268c05-06）

第三十一願（国土清淨）

設我得佛。國土清淨。皆悉照見十方一切無量無數不可思議諸佛世界。猶如明鏡觀其面像。若不爾者。不取正覺。（T12_0360_0268c08-09）

Ch 1117v T II T 1896 10.5×7.2 AA 罽線有り

- 01] [虚空所有] [] [
- 02] 人天皆是菩薩如 [
- 03] [羅] 三藐三菩提（三十二）世尊 [
- 04] 世界諸衆生等遇我 [

この断片には、3行目に「卅二」の文字が挿入されており、ここで願文が区切られることを示している。因みに『無量寿経』の当該箇所は以下の通りとなっている。

第三十二願 (国土嚴飾 (宝香合成))

設我得佛。自地以上至于虛空。宮殿樓觀池流華樹。國土所有一切萬物。皆以無量雜寶百千種香而共合成。嚴飾奇妙超諸人天。其香普薰十方世界。菩薩聞者皆修佛行。若不爾者。不取正覺。(T12 0360 0268c10-14)

第三十三願 (觸光柔軟)

設我得佛。十方無量不可思議諸佛世界衆生之類。蒙我光明觸其體者。身心柔軟超過人天。若不爾者。不取正覺。(T12 0360 0268c15-17)

Ch 0953v T II T 1980 12.9×10.9 AA 罫線有り，下界線有り，紙縫有り

01 〕〔阿耨多羅三〕

02 〕成佛道已十方無量

03 〕〔民等〕諸成佛世界所有

04 〕〔來〕成佛於其中間

05 〕〔羅〕三藐三菩提 (三十六) 世

06 〕〔不可〕思議不

.....紙縫.....

この断片には、3行目に「卅六」の文字が挿入されており、ここで願文が区切られることを示している。「三菩提」までが第三十六願であり、以下が第三十七願となる。

Ch 1161v T II T 1957 10.9×7.0 AA 罫線有り, 上界線有り

01 藐三菩 [提] [

02 不可思議不可「稱」〔

[illegible]

04 不脩梵行〔

上に挙げた Ch 0953v と Ch 1161v の 2 断片は接合しないが、同じ筆跡であり、同一写本の離れと見て間違いない。これらは『無量寿経』の第三十六願に相当する。

第三十六願（常修梵行）

設我得佛。十方無量不可思議諸佛世界諸菩薩衆。聞我名字。壽終之後常修梵行至成佛道。若不爾者。不取正覺。(T12_0360_0268c25-27)

Ch 0953v + Ch 1161v

- 01] 〔阿耨多羅三〕
 02 藐三菩提〔提〕〔(三十五) 世尊若我未來〕成佛道已十方無量
 03 不可思議不可〔稱〕〔 人〕〔民等〕諸成佛世界所有
 04 菩薩〔聞〕〔我名〕字〔〔 未〕〔來〕成佛於其中間〕
 05 不脩梵行〔我終不取阿耨多〕〔羅〕三藐三菩提 (三十六) 世
 06] 〔不可〕思議不

この断片中にある「成佛於其中間」という語句は、『悲華経』(T03_0157_0193c16)、『佛說大乘無量壽莊嚴經』卷下 (T12_0363_0324b16-21)、『佛說阿彌陀經』卷下 (T12_0364_0334a06-11) 等にあるが、合致しない。

参考として『如来会』の第三十六願文を挙げると、以下の通りであり、この写本群とは別系統であることが分かる。

若我成佛。無量無數不可思議無等佛刹菩薩之衆。聞我名已得離生法。若不修行殊勝梵行。乃至到於大菩提者。不取正覺。(T11_0310_0094b18-20)

Ch 3271er T II T 2017 10.6×4.4 AA 罫線有り、紙縫の痕跡有り

01 〕終不取〔阿耨〕〔

02) 成佛道已十方無 [量] {

……紙縫……

この断片は、左端に紙縫の痕跡が有り、Ch 953vの左端と一致する。それ故、完全に接合しないものの、Ch. 0953v + Ch. 1161v の05-06行目に相当すると考えられる。これも含めて記すと下記のようになり、本写本の⁰⁸本願文中、第三十六願のほぼ全文が得られることになる。(末尾図版参照)

Ch 0953v + Ch 1161v + Ch 3271er

01) [阿耨多羅三]

02 藐三菩 [提] ((三十五) 世尊若我未來) 成佛道已十方無量

03 不可思議不可 [稱] { 人) [民等] 諸成佛世界所有

04 菩薩 [聞] [我名] 字 [] { 未) [來] 成佛於其中間

05 不脩梵行 [我] 終不取 [阿耨] (多) [羅] 三藐三菩提 (三十六) 世

06 [尊若我未來] 成佛道已十方無 [量] [不可] 思議不

Ch 3271cr T II T 2017 1.9×3.6 AA 罫線有り、上界線有り

01 [字] {

02 菩 {

Ch 3271には5断片が夾入されており、Ch 3271eの左上にある小断片が本断片である。2字が見えるだけの極小断片であり、本来、これだけで同定することは不可能であるが、Ch 3271eと同じAA期の筆跡であり、上界線下の行冒頭が「[名] 字」と「菩 [薩]」と考えられることから、上述の写本群のどこかに位置する可能性が高い。

以上に挙げた、Ch. 873v, 953v, 1111br, 1117v, 1161v, 3271er (および3271cr) は初期〈無量寿経〉の同系統の写本であり、この6 (および7) 断片から、この部分は、日本の浄土教諸宗派で説誦されている『無量寿経』四十八

願文の「設我得仏……不取正覺」とある部分に相当している。しかし、その形式は独特であり、「世尊若我未來成佛道已……我終不取阿耨多羅三藐三菩提」であることが分かる。

藤田宏達氏は、〈無量寿経〉の二十四願（『大阿弥陀経』『平等覚経』）、三十六願（『大乘無量莊嚴経』）、四十七願（サンスクリット本）、四十八願（『無量寿経』『如来会』）、四十九願（チベット訳）の願文を整理され、二十四願が「『初期無量寿経』の所説で、最も古い形態を持つと見ることに異論をたてる余地はない。」⁰⁰三十六願は「莊嚴経」のみの説で、「『後期無量寿経』の中でも、おそらく四十八願系の原本もしくは漢訳が成立した後に、それにもとづいて漢訳された異系統の説と見られる」⁰⁰、「『後期無量寿経』四本の成立順序は「無量寿経」→『如来会』→サンスクリット本→チベット訳と想定される」⁰⁰とされる。

しかし、ここに挙げた諸断片は、AA期の写本であり、第七願から第三十七願冒頭に相当する箇所が現存しているため、二十四願系でも三十六願系でもないことは明らかである。4～5世紀というかなり早い段階で四十八願系の翻訳が存在したか、初期〈無量寿経〉には二十四願と並んで四十八願系も存在していたかのいずれかとなる。⁰⁰

イスタンブル大学図書館所蔵初期〈無量寿経〉写本

一方、百濟康義氏によって紹介されたトルコ・イスタンブル大学図書館所蔵の新異訳〈無量寿経〉⁰⁰写本は、書体などの特徴から、本写本よりは新しいものと考えられるが、明らかに初期〈無量寿経〉系の同系統の写本である。

上下の界線も見え、トルファン写本としては非常に整った写本で33行からなる。北朝前期の末期450年から遅くとも500年までに書写されたと見られている。⁰⁰百濟氏によって「漢訳された〈無量寿経〉の一部分であること、しかしながら現行の〈無量寿経〉漢訳五本の何れとも一致しないこと」、「〈無量寿経〉諸本のうち『四八願系』（梵本、チベット訳、康僧鎧訳、菩提流志訳）

に属すること」,「なかでも康僧鎧訳と伝えられる『無量寿経』よりも,菩提流志訳『無量寿如来会』に近い対応を示す」ことが述べられている。

この写本第21行目から33行目までが,本願文の第一願から第五願までにあたり,各願の終わりに「一」～「五」の漢数字が右横に挿入されている点を含めて形式が完全に一致している。百濟氏は,『如来会』に近い対応を示すとされるが,この写本が同系統の翻訳であったとすれば,むしろ『無量寿経』に近い対応を示す箇所が多く,いずれにしても,これまでの常識であった二十四願系だけでなく,四十八願系の古い形式があったことを示す例として注目されねばならないであろう。

本願文の形式

・『大阿弥陀経』卷上

「第□願。使某作佛時。令[我 or 八方]……得是願乃作佛。不得是願終不作佛」(□は願番号の漢数字)

・『平等覺経』卷第一

「□我作佛時……我不作佛」(□は願番号の漢数字)

・『無量寿経』卷上

「設我得佛……不取正覺」

・『如来会』第五之一

第1願:「若我證得無上菩提……我終不取無上正覺」

第2願以降:「若我成佛……我終不取正覺(菩提)」(願番号なし)

・本写本およびイスタンブル大学図書館所蔵写本

「世尊若我未來成佛道已……我終不取阿耨多羅三藐三菩提」

Ch 0030 T II 1791(Toyuk) 8.2×13.2 AA 罽線無し

01) [] 皆依 [因何] [] {

02) [] 佛所所阿難 [聞] {

03) [言] 我不敢有疑 {

- 04) [須] 彌山其第一四天〔
05) [] 若有人來問我阿彌〔
06) [利] 天依因何等住〔
07) [彌] 陀佛國無〔
08) [] 所依因何〔

この断片は、既刊目録 (Band III, No. 0574) では、『大阿弥陀經』に同定するものの、T12_0362_0309b-c とするだけで、箇所が特定されていない。阿弥陀仏の浄土を「清淨佛國」ではなく「阿彌陀佛國」とする点から考えて、『大阿弥陀經』系の写本と考えられるが、用語、1行字数とも合致せず同定できない。⁰⁹

Ch 1556r T III 78.2 (Toyuk) 7.6×10.0 AA 罫線有り、下界線有り

- 01) [盡] 終不得離
02) 度痛不可言
03) [] 皆趣自然
04) 痛為一燒勤苦
05) [人] 能於中一心制
06) [身獨度]〔

この断片は、『大阿弥陀經』や『平等覺經』ではなく、『無量壽經』卷下 (T12_0360_0276a11-17) に相当するが、用語や一行字数などが一致しない。

- 01 盡不得相離
02 展轉其中無有出期難得解脫痛不可言
03 天地之間自然有是雖不即時卒暴應至
04 善惡之道會當歸之是為一大惡一痛一燒勤苦
05 如是譬如大火焚燒人身人能於中一心制
06 意端身正行獨作諸善不為衆惡者身獨度

校異

01 盡終不得離＝盡不得相離（『無量』）

02 [度] の横に「痛」の字

Ch 0251 T III 78.3 (Toyuk) 16.4×9.3 AA 罫線有り

01) [法。受] 其過譴重 [罰致劇。] [求望解脫難得度出。今世有

02) [是] 前現事。壽終尤劇。[入其窈冥。受身更生。譬若王

03 法劇 [苦] 極刑。[故] 有自然泥犁 [禽] [獸薜荔。蜎飛蠕動之

04 類屬。質] 身形。改惡易道。壽命短長。[魂] [神命精。自然入

05 趣。受] [形寄胎。] 當 [獨值向。相從共] [

校異

02 是前現事＝目前現在（『平等』，『大阿』）

02 尤＝挿入（無と入れ替え）

ここに挙げた AA 期に属する初期〈無量寿経〉写本は、既刊目録（Vol. 3, No. 0573）では、『佛説無量清淨平等覺經』卷第四 T12_0361_0295c10-16 に同定^{on}されている。実際、ほぼ『平等覺經』に同定されるが、2行目冒頭に、『大阿弥陀經』『平等覺經』にない訳語が存在している。この用語の相違を単なる書写の誤りとするか、異訳と見なすかの判断は難しいが、少なくとも両者に近い初期〈無量寿経〉系統の写本とは言えるであろう。

ところで、旅順博物館には、すでに紹介したように、AA 期に属する初期〈無量寿経〉写本 5 点がある。本写本とは接合しないが、筆跡も近く、『平等覺經（T12_0361_0293c08-14）』と『大阿弥陀經（T12_0362_0311c20-26）』に近似しているという点も共通している。さらに、経中の位置も近いので、同一写本の可能性も排除できないので、ここに再掲したい。

旅順博物館所蔵の初期〈無量寿経〉写本

中国旅順博物館（以下旅博）には、ドイツ隊と同時期に同地域を採検した大谷探検隊の収集したトルファン写本が多数所蔵されている。漢字・非漢字併せ、数万点にわたる写本のうち、漢字で書写された浄土教写本については、166点を図版とともに紹介した。特に、以下の5点は、大正蔵にないテキストを持つ初期〈無量寿経〉写本であることを指摘しておいた。

① LM20_1490_14_01（「涅槃般若経二」）

② LM20_1462_29_01（「経帖十三」）

③ LM20_1454_08_07（「経帖五」）

④ LM20_1462_35_01（「経帖十三」）

⑤ LM20_1453_17_03（「経帖四」）

この5断片は、同一写本の断片であることは疑いなく、先のドイツ隊収集写本と同様に、3世紀末から5世紀前半の初期〈無量寿経〉の写本であるが、大正蔵に収載される〈無量寿経〉のいずれのテキストとも合致しない。①は、『大阿弥陀経』・『平等覚経』とほぼ一致するものの、両経にない「〔無量〕壽佛國」という用語が見える。②～⑤は、比較的『平等覚経』に近いテキストとなっている。相互に非常に類似したテキストをもつ『大阿弥陀経』と『平等覚経』とが、初期〈無量寿経〉の異訳として扱われている顕著な特徴は、『阿彌陀佛國』（『大阿弥陀経』）か「無量清淨佛國」（『平等覚経』）かである。そこに「〔無量〕壽佛國」という別の用語を持つテキストがあれば、それは、単なる訳語の相違や書写の際の転写ミスとは言えない重大な相違であり、それぞれを異訳として扱う方が理にかなっている。

旅博写本は、大正蔵では『大阿弥陀経』（大正12, 311b28-c26）、『平等覚経』（同293b1-c14）にあたり、欠損部分を補足すれば420字分に相当する。一方、現行の『無量寿経』の平行箇所（同274b18-21）は、58字に過ぎず、大幅に短くなっているが、旅博写本で「〔無量〕壽佛國」とある部分が「無

量壽國」となっているほか、後半が旅博写本とほぼ同文となっている点が注目される。残念ながら、本写本の経題や奥書が見つかっておらず、現時点で訳者を確定することはできない。

CBETA による用語検索の結果を見ると、『大阿彌陀經』には「無量清淨佛（國）」「無量壽佛（國）」という用例がともになく、『平等覺經』には、「阿彌陀佛（國）」は用例が見られるものの、「無量壽佛（國）」の用例がない。因みに、『無量壽經』では、「阿彌陀佛（國）」「無量清淨佛（國）」ともに用例がない。経題と仏及び仏国土の呼称とは密接な関係があることを考え合わせると、初期〈無量壽經〉には、以下の三種の系統があったことを想起せしめる。

- ・ 「阿彌陀佛（國）」系經典……『阿彌陀三耶三仏薩婆仏檀過度人道經』
- ・ 「無量清淨佛（國）」系經典……『無量清淨平等覺經』
- ・ 「無量壽佛（國）」系經典……『無量壽經』

そうすると、もう一つの別系統の「無量壽佛（國）」系の翻訳があり、その最古級の写本が、この旅博写本の可能性がある。

以下、上記5断片の録文に、欠損部を大正蔵の『平等覺經』から補足して、計420字相当の復元テキストを提示する。（下線部は当該写本）

復元テキスト

- 01 其後當復何益但心中悵懷慕及等爾佛
- 02 言無量壽佛國諸菩薩阿羅漢衆等大道衆
- 03 會自都集拘心制意端身正行遊戲洞達俱
- 04 相隨飛行幡輦出入供養無極歡心喜樂樂
- 05 共觀經行道和好習文才猛智慧志若虛空精
- 06 進求願心終不復中轉終無有懈極時雖求道
- 07 外若遲緩内獨急疾容容虛空這得其中中表相
- 08 應自然嚴整檢斂端直身心淨潔無有愛欲有

- 09 所適貪無有衆惡瑕穢其志願皆安定殊好無
- 10 曾缺減求道和政不誤傾邪准望道法隨經
- 11 令不敢違失蹉跌猶若繩墨遊於八方上下無
- 12 有邊幅自在所欲至到無窮無極咸然為
- 13 道恢廓慕及曠蕩念道無他之念無有憂思自然無
- 14 為虛無空立淡安無欲作德善願盡心求索含
- 15 哀慈愍精進中表禮義都合通洞無違和順
- 16 副稱褒羅表裏解脫過度敢昇入於泥洹長與
- 17 道德合明自然相保守善意滋滋真真了潔
- 18 白志願高無上清淨定安靜樂之無有極善好無有比巍巍
- 19 之曜照曜照開達明徹自然中自然相自然之有根本自
- 20 然成五光五光至九色九色參迴轉數百千更變最勝之自
- 21 然自然成七寶橫攬成萬物光精參明俱出好甚殊無
- 22 有極其國土甚好如此何不力急為善念道之
- 23 自然著於無上下洞達無邊幅捐志

この部分は、いわゆる「五惡段」の直前にあたり、香川孝雄氏の諸本対照⁹⁸によると、サンスクリット本、チベット訳に対応箇所がなく、現行の『無量寿経』では、わずかに以下の58字が相当するのみである。(下線部は当該写本との平行箇所)

『無量寿経』T12_0360_0274b18-21

佛告彌勒菩薩諸天人等

無量壽國聲聞菩薩功德智慧不可稱說又其

國土微妙安樂清淨若此何不力為善念道之

自然著於無上下洞達無邊際

当該写本の「無量壽佛國」に相当する部分が「無量壽國」となっているほか、後半部分がほぼ同一となっている点が注目される。

おわりに

以上に紹介したベルリン国立図書館所蔵資料とイスタンブル大学所蔵資料は、同じくドイツ隊収集資料という共通点がある。種々の面で同系統の初期〈無量寿経〉写本であることは疑いないが、書写年代が異なる写本である。

一方、ベルリンと旅順博物館所蔵資料とは、トルファン地域から出土した資料であり、相互に接合はしないものの、書写年代も近接した、初期〈無量寿経〉の中でも「無量寿佛(國)」系経典としての特徴を共有している。これらがいかなる翻訳者のものかは決定しがたいが、一つの候補として竺法護が挙げられよう。彼は、太始二年(266)『須真天子經』から永嘉二年(308)「無量寿經」(1月21日)『普曜經』(5月)までの42年間翻訳活動を行ったという。²⁸『出三藏記集』卷二には、

「無量寿經二卷 一名無量清淨平等覺經」²⁹

「竺法護無量寿二卷を出だす。或いは無量清淨平等覺と云う。」³⁰

とあり、「無量寿經」という名称の浄土経典を翻訳していることが明らかである。藤田宏達氏は、「無量清淨」という仏名が、竺法護訳の経典にはまったく認められぬことである。竺法護は阿弥陀仏名としては、「阿弥陀」と「無量寿」あるいは「無量」という訳語を使っているだけで、「無量清淨」という語を用いることは決してない。³¹とされ、竺法護の訳語に「無量寿」の語があることを注意しておられる。

〈無量寿經〉が竺法護によって翻訳されたことはほぼ確実であろうが、それが現存のいかなるテキストに該当するのか、あるいは未同定とされる写本がそれに相当するのか、現時点では確定できない。ここでは、本稿で取りあげた写本群が後者の可能性を秘めた写本であることを指摘するにとどめたい。³²

〈2012年度龍谷大学長期国外研究員制度による研究成果の一部〉

註

- (1) 拙稿「ベルリンの仏教事情」「仏教学研究」(龍谷仏教学会) 69, 2013, pp. 285-308
- (2) Ch ……漢文の資料。(写本と版本。漢字を含むもの約5,300面)
Ch 1-3960, 5501-5557, 5600-5647, 6000-6003, 7000-7008
Haus 2 (Potsdamer strasse)
SHT……サンスクリット語文の資料。(漢字を含むもの70点) Haus 2
THT……トカラ語文の資料。(漢字を含むもの25点) Haus 2
TibHT……チベット語文の資料。(漢字を含むもの26点) Haus 2
Tib, Tib/Tu, Ch/Tu が再整理されたもの。
SyrHT……シリア語文の資料。(漢字を含むもの1点) Haus 2
Ch/U ……表面が漢文・裏面がウイグル語の資料(漢字を含むもの約2,390点) Ch/U 3909-3917, 6000-7774, 8000-8224
BBAW
Ch/So ……表面が漢文・裏面がソグド語の資料。BBAW
So……ソグド語の資料。(漢字を含むものもある) BBAW
(Ch/So と So は共通の通し番号が与えられており, Ch/So は, 漢字面があることが明かな資料を示す。両者を含め漢字を含むもの約110点)
U……古代トルコ語の資料。(漢字を含むもの86点) BBAW
M……マニ文字中期イラン語資料。(漢字を含むもの50点) BBAW
bs……ブラーフミー文字ソグド語資料。(漢字を含むもの1点) BBAW
h……エフタル文字バクトリア語資料。(漢字を含むもの2点) BBAW
n……ネストリウス文字ソグド語キリスト教資料。
(漢字を含むもの3点) BBAW
Mainz……第二次世界大戦中にマインツに疎開していた資料。ブラーフミー, チベット, ウイグル, ソグド, 漢字など多岐に亘る。後にマールブルク, ベルリンに移された。
BBAW (漢字を含むもの約44点) 及び Haus 2 (同約10点)
MIK III……アジア美術館独自の整理番号 (MIK III) で登録されている資料
(漢字を含むもの約100点) アジア美術館
- (3) 龍谷大学「西域文化研究会」では, 以下に挙げる [藤枝晃1987, 2005], [百濟康義2003] の分期法に準拠しながら, 新たな写本の書写年代基準の策定を試みた。本稿で記載した AA の年代基準は, 基本的に藤枝晃氏の業績によるところである。(P は, 版本を示す)
AA……北朝前期 3世紀末—5世紀前半(北涼時代まで)

A……北朝後期 5世紀前半—6世紀中期（麴氏高昌國前期まで）

A'……高昌國期 6世紀前半—7世紀中期（麴氏高昌國滅亡まで）

C……唐代（7—10世紀）

C1……高昌國末期～唐時代

C2……唐時代

C3……唐時代～ウイグル期

D……ウイグル期（9世紀中期—11世紀）

C1～C3は、藤枝分期法（AA, A, A', C, D）にはなく、2002年度から2005年度まで旅順博物館所蔵の漢字資料を整理するにあたって、便宜的に設定したものである。

・藤枝晃「中国北朝写本の三分期」『古筆と国文学』（古筆学叢林第一巻）古筆学研究所編、八木書店、1987、pp3-36。

・藤枝晃編「トルファン出土仏典の研究—高昌殘影釈録」法蔵館、2005。

・百濟康義「漢字文化圏の書と表現の跡」『書と表現の跡』（仏の来た道 2003 大谷探検隊100周年・西域文化研究会50周年シルクロード文物展）、龍谷大学学術情報センター、2003。

- (4) 本稿で〈無量寿経〉とする場合は、藤田宏達氏に従い、以下の注で示す五訳の他、「五存七欠」を含むすべての無量寿経系經典を指すこととし、伝康僧鎧訳の「無量寿経」と区別する。藤田宏達『原始浄土思想の研究』岩波書店、1970、藤田宏達『浄土三部経の研究』岩波書店、2007参照。

- (5) 藤田宏達氏によれば、現存する五訳は以下の通りである。[藤田宏達2007] pp. 35-36。

・「阿弥陀三耶三仏薩樓仏檀過度人道経」〔通称「大阿弥陀経」〕二卷、呉・支謙訳（222または223-228または253年）ただし異説がある。〕

・「無量清浄平等覚経」四卷（後漢・支婁迦讖訳〔実際は、魏・帛延（または白延）訳（258年頃）と推定される。ただし異説がある〕

・「無量寿経」二卷、曹魏・康僧鎧訳〔実際は、東晋・仏陀跋陀羅と劉宋・宝雲の共訳（421年）と推定される〕

・「無量寿如来会」二卷（『大宝積経』第五会・卷一七・卷一八）、唐・菩提流支訳（706-713年）

・「大乘無量寿莊嚴経」三卷、宋・法賢訳（991年）

この他に、百濟康義氏によって紹介されたイスタンブル大学所蔵の新異訳〈無量寿経〉写本がある。

- (6) 第1巻、第2巻（Band I, II）は、断片の掲載番号が振られていないので、当該断片の掲載されているページ数を、第3巻（Band III）は、掲載番号で記載する。

Band I:

Gerhard Schmitt, Thomas Thilo: *Katalog Chinesischer Buddhistischer Textfragmente / Schriften zur Geschichte und Kultur des Alten Orients / Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin (Berliner Turfantexte 6)*, 1975

Band II:

Thomas Thilo: *Katalog Chinesischer Buddhistischer Textfragmente / Schriften zur Geschichte und Kultur des Alten Orients / Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin (Berliner Turfantexte 14)*, 1985

Band III:

KOGI KUDARA: *CHINESISCHE UND MANJURISCHE HANDSCHRIFTEN UND SELTENE DRUCKE TEIL 4* (Verzeichnis der Orientalischen Handschriften in Deutschland, Band XII, 4) Chinese Buddhist Texts from the Berlin Turfan Collections volume 3, compiled by KOGI KUDARA, edited by TOSHITAKA HASUIKE and MAZUMI MITANI, Franz Steiner Verlag Stuttgart, 2005

この他、百濟康義責任編集『ベルリン所蔵東トルキスタン出土漢文文献目録（試行本）』龍谷大学仏教文化研究所西域研究会、2000（未刊）があり、榮新江主編『吐魯番文書総目（歐美收藏卷）』（武漢大学學術叢書）武漢大学出版社、2007では、このデータが採用されている。

- (7) International Dunhuang Project のドイツ語サイト <http://idp.bbaw.de> によれば、旧番号の冒頭に (Toyuk) と表示されており、出土地を示しておく。

- (8) 『平等覚経』は、異なる内容となっている。T12_0361_0281a29-b09

七我作佛時。人民有來生我國者。不悉知他人心中所念者。我不作佛。

八我作佛時。我國中人民不悉飛者。我不作佛。

九我作佛時。我國中人民不悉徹聽者。我不作佛。

十我作佛時。我國中人民有愛欲者。我不作佛。

十一我作佛時。我國中人民住止盡般泥洹。不爾者我不作佛。

- (9) 以下、各願の願文を紹介する場合に記載する願名は、〔藤田宏達2007〕pp. 305-308の「本願比較対照表」に従った。

- (10) 肖越氏によれば、「『平等覚経』の本願文は『後期無量寿経』と同じ系統である可能性が非常に高い」とされ、「『平等覚経』の原本の本願の数は、二十四であった可能性が非常に低い」と考えられている。肖越「初期無量寿経」成立史における『無量清淨平等覚経』『佛教大学総合研究所紀要』17, 2010, pp. 49-50参照。

- (11) 〔藤田宏達2007〕p. 308。詳細は〔藤田宏達1970〕pp. 379-401参照。

- (12) 〔藤田宏達2007〕p. 309

- (13) 〔藤田宏達2007〕p. 332

- (14) 肖越氏は、『平等覚経』の翻訳者は、原本に基づき本願文を翻訳したが、すでに先にあった『大阿弥陀経』の本願数を維持した。[肖越2010: 50]とされるが、初期〈無量寿経〉の本願数については明言されていない。

本稿で取り上げた写本が、肖越氏が指摘する『平等覚経』の原本に相当するのか、あるいは竺法護の可能性を含めて他の翻訳者のものであるかは、今後の検討を要するが、少なくとも、漢訳された初期〈無量寿経〉に四十八願系のものが現存していることは明らかである。[肖越2010: 45-64] および、肖越「『大阿弥陀経』の成立の問題をめぐる」『佛教大学総合研究所紀要』18, 2011, pp. 1-29参照。

- (15) 百濟康義「漢訳〈無量寿経〉の新異本断片」『インド哲学と仏教』（藤田宏達博士還暦記念論集）平楽寺書店，1989，pp. 373-394
- (16) 藤田宏達氏は、当該写本が、「七闕」の中で最も近い『新無量寿経』二巻、曇摩蜜多（Dharmamitra, 訳経年代424-442訳である可能性を示唆しておられるが、いずれにしても、百濟氏の見解を受けて「五存」を「六存」に改めるべき新資料」としておられる。[藤田宏達2007] p. 38
- (17) [百濟康義1989] pp. 389-390
- (18) 当該写本の21行目から最終33行目までを示す。

21 [尊。] 今當聽我，所發誓願。世尊，若我未來，成
 22 佛道已，我世界中，若有地獄畜生餓鬼，我
 23 終不取，阿耨多羅，三藐三菩提。（一）世尊，若我
 24 未來，成佛道已，生我世界，諸衆生等，命終
 25 之後，墮三惡趣，我終不取，阿耨多羅，三藐
 26 三菩提。（二）世尊，若我未來，成佛道已。我國衆
 27 生，有種種色，若干差別，不純金色，我終不
 28 取，阿耨多羅，三藐三菩提。（三）世尊，若我未來，
 29 成佛道已，我界人天，有異色相，我終不取，
 30 阿耨多羅，三藐三菩提。（四）世尊，若我未來，成
 31 佛道已，生我世界，諸衆生等，若不自識，命
 32 宿之事，乃至百千億那由他，我終不取，[阿耨]
 33 多羅，三藐三菩提。（五）[世尊，若我未來，成佛道]

- (19) 『大阿弥陀経』の関連箇所（T12_0362_0309b28-c05）は、下記の通り。
 白佛言。我不敢有疑意於佛所。所以問佛者。他方佛國。皆有須彌山。第一四天。第二忉利天。皆依因之住止。我恐佛般泥洹後。儻有諸天人民。若比丘僧比丘尼優婆塞優婆夷來問我。阿彌陀佛國。何以獨無有須彌山。其第一四天王。第二忉利天。皆依因何等住止。
- (20) 『平等覚経』の当該箇所（T12_0361_0295c10-16）は下記の通り。
 法。受其過譴重罰致劇。求望解脫難得度出。今世有是日現在。壽終尤劇。

入其窈冥。受身更生。譬若王法劇苦極刑。故有自然泥梨禽獸薜荔。蜎飛蠕動之類屬。質身形。改惡易道。壽命短長。魂神命精。自然入趣。受形寄胎。當獨值向。相從共

参考として、『大阿弥陀経』巻下 (T12_0362_0313c16-22) の当該箇所を挙げる。

法。受其過謫重罰致劇。求望解脫難得度出。今世有是日前現在。壽終有處入其窈冥受身更生。比若王法劇苦極刑。故有自然泥梨禽獸薜荔。蜎飛蠕動之類。轉質身形改惡易道。壽命短長魂神精識。自然入趣受形寄胎。當獨值向相從共

- (21) 旅順博物館所蔵新疆出土漢文浄土教写本集成 (龍谷大学西域研究叢書 5) 旅順博物館・龍谷大学共編, 西域文化研究会, 2010 (142p)
- (22) 拙稿「旅順博物館所蔵の漢文無量寿経写本」『宗教研究』83-4, 2010, pp. 409-410. および, 拙稿「旅順博物館所蔵の浄土教写本について」『国際文化研究』(龍谷大学国際文化学会) 12, 2008, pp. 29-44参照。
- (23) 新疆ウイグル自治区博物館には, 旅博写本とは別写本であるが, 明らかに「無量壽佛國」と訳出されている同系統の〈無量寿経〉写本が所蔵されており, 「大阿」や「平等」とは別系統の翻訳の存在を示唆している。[拙稿2008] pp. 29-44参照。
- (24) 竺法護訳の初期〈無量寿経〉写本が実在する場合, 「大阿」訳出 (支謙 (222~253の間) あるいは支婁迦讖 (178~189の間)), 「平等」訳出 (帛延 (白延) 256~259頃), 竺法護訳成立 (308年), 無量寿経として『道安録』に記載 (374年頃) という経過をたどった後, 竺法護訳は失われ, 「大阿」と「平等」のみが「五存」の二訳として残されたことになる。本稿註(33)参照。
- (25) 中華電子仏典協会 (CBETA) のCBReader2007で検索すると,
 「大阿弥陀経」……「阿彌陀佛」: 164箇所, 「阿彌陀佛國」: 82箇所 (「無量清淨佛」「無量清淨佛國」, 「無量壽佛」「無量壽佛國」ともに用例無し)
 「平等覚経」……「無量清淨佛」: 219箇所, 「無量清淨佛國」: 92箇所 (「阿彌陀佛」9箇所, 「阿彌陀佛國」6箇所あり, 「無量壽佛」「無量壽佛國」用例無し)
 「無量寿経」……「無量壽佛」: 28箇所, 「無量壽佛國」: 2箇所。「無量壽國」: 5箇所あり (「阿彌陀佛」「阿彌陀佛國」, 「無量清淨佛」「無量清淨佛國」ともに用例無し)
- (26) 香川孝雄『無量寿経の諸本対照研究』永田文昌堂, 1984, p. 305。
- (27) Ayşe Gül Sertkaya “How the Texts found in Turfan were transferred to the Library of Istanbul University?” 『吐魯番学研究』第二屆吐魯番学国際學術研討會論文集, 新疆吐魯番地区文物局編, 上海辞書出版社, 2006, pp. 215-

220. 日本語訳は、拙稿「イスタンブル大学図書館にどのようにトルファン出土文書が移管されたか？」龍谷大学『仏教文化研究所紀要』第47号, pp.(68)-(76)参照。
- (28) 『歴代三寶記』卷第六(譯經西晉)「無量壽經二卷(永嘉二年正月二十一日譯。是第四出。)(T49_2034_0062b24), 『出三藏記集錄上』卷第二「自太始中至懷帝永嘉二年。以前所譯出。」(T55_2145_0009c01)
- (29) 『出三藏記集錄上』卷第二「無量壽經二卷(一名無量清淨平等覺經)」(T55_2145_0007c06)
- (30) 「無量壽經(支謙出阿彌陀經二卷竺法護出無量壽二卷或云無量清淨平等覺鳩摩羅什出無量壽一卷釋寶雲出新無量壽二卷求那跋陀羅出無量壽一卷)(T55_2145_0014a23)」
- (31) [藤田宏達2007] p. 48
- (32) 『道安錄』(374年頃)に記載され、『出三藏記集』(502-515年頃)卷二に記し、『法經錄』(594年), 『歴代三寶記』(597年), 仁壽錄』(602年), 『大唐内典錄』(664年), 『静泰錄』(666年), 『古今訳経図紀』(-640年-), 『武周録』(695年), 『開元録』(730年), 『貞元録』(800年)が、例外なく、竺法護訳を記載している。これは支謙訳『大阿彌陀經』も同様であるが、これについては藤田宏達氏をはじめとする多くの学者がその存在を支持している。
- (33) 竺法護訳の初期〈無量寿経〉写本が実在する場合の成立の状況を、[拙稿2008]から再掲する。(①から⑤は「五存」)
- 1 『大阿彌陀經』訳出(支謙(222-253の間)あるいは支婁迦讖(178-189の間))→現行の支謙訳①
 - 2 『平等覺經』訳出(帛延(白延)256-259頃)→現行の帛延訳②
 - 3 竺法護訳成立(308年)→写本として流布(後に欠本)
 - 4 『道安錄』に記載(374年頃)(無量寿経)
 - 5 『無量寿経』訳出(仏陀跋陀羅・宝雲共訳421年)(新無量寿経)→現行の康僧鑑訳③
 - 6 『無量寿如来会』(菩提流支訳706-713年)④
 - 7 『大乘無量寿莊嚴經』法賢訳991年)⑤

キーワード トルファン、ドイツ隊、写本、無量寿経、大阿彌陀経、平等覺経、五存七欠

Ch 1161v

初期無量寿経写本

宿三善根三十五世尊若我未來成佛道已十方无量
 不可思議不可稱人等諸佛世界亦
 善薩願名未成佛於其中間
 不順彼行我後不釋羅三首三善提世
 尊若我未來成佛道已十方无量不可思議不

Ch 3271er

Ch 0953v

Depositen der BERLIN-BRANDENBURGISCHEN AKADEMIE DER WISSENSCHAFTEN
 in der STAATSBIBLIOTHEK ZU BERLIN - Preussischer Kulturbesitz-Orientalabteilung